オープンイノベーション機構の整備事業
令和6年度終了評価 評価結果

採択大学名：大阪大学

1. 評価結果(A)

期待どおりの成果が得られており、大型共同研究等の組成・運営等に向けた産学連携マネジメントとして、今後も十分な活動が期待される。

2. 評価所見

・運営体制

統括 CM の下に、ビジネス・ディベロップメント、知財戦略、研究開発プロジェクト等を担当するクリエイティブ・マネージャー (CM) を配置し、中にはマネジメント業務量に応じて適切に CM のエフォート拡充や、増員が行われた。研究開発プロジェクトを担当する CM と統括 CM が協調し、研究者との研究計画の協議や、各プロジェクトの進捗状況共有、発明届の評価等、研究シーズを適切に評価する活動を積み重ねてきた。学内に産学連携を所掌する共創機構が整備されている中、研究テーマの大型化、グローバル化を担うオープンイノベーション機構の役割を明確にし、そのマネジメント体制が当初の計画以上に機能する形で整備されたことは評価すべき点である。

・研究運営

OI 機構では、「医療機器」、「行動センシング」、「創薬」、「材料」、「環境・エネルギー」の5つを重点分野として定めている。全学の発明届をファーストルックした上で、当該重点分野の社会課題や事業からバックキャストして発明内容を精査し、ライセンス契約や大型共同研究プロジェクトに効果的に繋げる研究運営を実施することができた点は評価できる。

また、研究データをライセンス収入につなげたことは、研究データを活用した資金調達のポテンシャルを顕在化させた取組として高く評価できる。なお、研究データのライセンス収入のうち、メディカル系のデータライセンス収入が主であるところ、今後は理工系の分野にも広がることを期待したい。

この他、OI 機構の主導による分野横断型プロジェクト組成や、「産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)OI 機構連携型」の研究成果の社会実装に向けた支援等の成果も認められる。

・資金調達

事業開始当初は伸び悩みが見られたが、OI 機構のマネジメントを確実に推し進めたことで、事業開始3年度目以降は着実に目標額を達成した。特に、4年度目以降はライセンス収入を顕著に増加させている。企業ニーズへの対応として、共同研究の組成以外の新たな方策の企画・提案に

も注力する OI 機構のマネジメント体制が根付いた成果といえる。

資金獲得額全体としては目標額を上回り達成しているが、共同研究収入のみに着目すると目標未達となっている。そのため、大型共同研究の組成に向けた取組についても損なわれることなく実施していくことを期待する。

・大学改革

OI 機構が取り扱うプロジェクト研究者へのインセンティブ付与を、OI 機構共同研究推進加算額として制度化するとともに、産学官連携推進活動経費(間接経費)を 20%から 30%に改定し、全額に展開した。さらに、研究者の知の価値を研究費に上乘せして計上できるように、「学術貢献費」を制度化し全学に展開した。これらの取組はいずれも、研究者の産学連携に対する意欲を高めるとともに、産学連携が進むシステム改革への具体的取組として評価できる。

・今後の展望

本整備事業によって貴学が築き上げた OI 機構の体制と機能はグローバルマーケティングオフィスへ引き継ぐこととされている。新体制下においても、OI 機構が蓄積したノウハウを全学の産学連携活動に引継ぎ、関係部署との連携の下、社会価値の創造に至るまでの総合的なマネジメントを一層強化・拡充していくことを期待する。貴学の高い研究ポテンシャルを生かしながら、新たな価値創造を行いつつ、外部資金を獲得するとともに、当該資金を研究や人材育成に再投資するといった持続的な研究力や価値創造に資する好循環モデルを構築することを期待したい。